

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月8日
【四半期会計期間】	第34期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社エフ・ジェー・ネクスト
【英訳名】	FJ NEXT CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 肥田 幸春
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
【電話番号】	03（6733）7711
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 兼 経営企画室長 永井 敦
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
【電話番号】	03（6733）7711
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 兼 経営企画室長 永井 敦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第1四半期連結 累計期間	第34期 第1四半期連結 累計期間	第33期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高(百万円)	6,562	9,682	31,153
経常利益(百万円)	642	1,333	3,821
四半期(当期)純利益(百万円)	322	1,252	2,203
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	320	1,247	2,223
純資産額(百万円)	18,315	21,216	20,109
総資産額(百万円)	30,160	31,580	32,443
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	10.36	40.23	70.81
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	60.7	67.2	62.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は平成25年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
5. 第34期より金額の表示単位を千円単位から百万円単位へ変更しております。なお、比較を容易にするため第33期についても百万円単位に組替えて表示しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当社の連結子会社でありました、株式会社エフ・ジェー不動産販売(不動産開発事業)は、平成25年5月1日を合併期日とする当社との吸収合併により消滅したため、当社の連結子会社ではなくなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による各種政策効果への期待感から円安・株高が進行し、企業収益や個人消費の一部に回復の動きがみられました。しかしながら、海外景気の下振れ懸念や円安による輸入品価格の上昇等により国内景気が下押しされるリスクが存在するなど、依然として不透明な状況が続いております。

不動産業界におきましては、平成25年上半年（1～6月）の首都圏におけるマンションの新規供給戸数が前年同期比17.1%増の2万4,299戸、1戸当りの販売価格が前年同期比4.8%増の4,736万円（株式会社不動産経済研究所調べ）となるなど、マンション市況は需給ともに好調を維持しております。

当社グループの主要事業領域である資産運用型分譲マンション市場におきましては、単身者を中心とした首都圏の賃貸需要が堅調であり、購入需要についても、安定した収益が期待できる運用商品として認知度が高まり、低金利にも後押しされ、堅調な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは、首都圏において、資産運用としての多彩なメリットを提供する「ガーラマンションシリーズ」の開発・販売の拡大、顧客サポート体制の充実、ブランド力の強化を図ってまいりました。また、中古マンション売上の拡充、ファミリーマンションの開発・販売にも積極的に取り組むとともに、販売費及び一般管理費の抑制を進め、グループ企業価値の向上に全力を尽くしてまいりました。

こうした結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高96億82百万円（前年同四半期比47.5%増）、営業利益13億44百万円（前年同四半期比101.2%増）、経常利益13億33百万円（前年同四半期比107.6%増）、四半期純利益12億52百万円（前年同四半期比288.4%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

##### 不動産開発事業

不動産開発事業におきましては、自社ブランド「ガーラマンションシリーズ」を積極的に営業展開するとともに、中古マンション145戸を販売した結果、ワンルームマンション売上高75億16百万円（374戸）、ファミリーマンション売上高3億69百万円（8戸）、その他収入10億44百万円となり、不動産開発事業の合計売上高89億29百万円（前年同四半期比50.0%増）、セグメント利益11億59百万円（前年同四半期比97.4%増）となりました。

##### 不動産管理事業

不動産管理事業は、管理物件の増加等により、売上高4億29百万円（前年同四半期比9.8%増）、セグメント利益1億69百万円（前年同四半期比43.0%増）となりました。

##### 建設事業

建設事業は、厳しい受注環境が継続しているものの、地道な営業活動を続けた結果、売上高は2億24百万円（前年同四半期比50.5%増）、セグメント利益6百万円（前年同四半期は25百万円の損失）となりました。

##### 旅館事業

旅館事業については、新規旅館の集客が順調に推移し、売上高97百万円（前年同四半期比40.9%増）、セグメント損失10百万円（前年同四半期は12百万円の損失）となりました。

なお、当社グループの主力事業である不動産開発事業は、顧客への物件引渡しをもって売上が計上されます。そのため、物件の竣工や引渡しのタイミングにより四半期ごとの業績に偏重が生じる傾向があります。

#### (2) 財政状態の分析

##### （資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は285億83百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億77百万円減少いたしました。これは主に有価証券が15億円、仕掛販売用不動産が4億22百万円、繰延税金資産が1億83百万円増加した一方、現金及び預金が1億42百万円、販売用不動産が29億74百万円減少したことによるものであります。固定資産は29億96百万円となり、前連結会計年度末に比べ13百万円増加いたしました。

この結果、総資産は315億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億63百万円減少いたしました。

##### （負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は58億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億61百万円減少いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が3億94百万円増加した一方、未払法人税等が7億87百万円減少したことによるものであります。固定負債は44億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億9百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が13億77百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は103億63百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億70百万円減少いたしました。

##### （純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は212億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億7百万円増加いたしました。主な増加は四半期純利益12億52百万円であり、減少は剰余金の配当1億40百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は67.2%（前連結会計年度末は62.0%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループの主力事業である首都圏におけるワンルームマンション及びコンパクトマンション市場におきましては、単身者や少人数世帯を中心とした都心部への人口移動の継続などを背景に、賃貸、実需ともに底堅い需要が続くものと予想され、資産運用に対する社会的関心が高まるなか、分散投資のひとつとして安定した収益を不動産に求める購入者層の一層の拡大が見込まれております。

用地仕入・開発面では、土地価格及び建築費が上昇傾向にあるため、収益性が見極めが一層重要になるものと考えられます。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえまして、以下のとおり考えております。

不動産開発事業

当社グループの主力事業である分譲マンション事業につきましては、主に資産運用を目的として購入されることに鑑み、開発地域については、都心部及びその周辺において安定した賃貸需要が見込める土地を厳選し、付加価値の高い商品を継続的に供給してまいります。

販売方法としては、コールセンター方式マーケティングを中心として、インターネット・メール等の多様な媒体を積極的に活用し、潜在需要の掘り起こしを図ってまいります。

また、中古マンションの需要の増加に対応し、仕入れ・販売体制を強化し、取引の拡大を図ってまいります。

不動産管理事業

購入者の長期にわたるマンション経営をサポートするため、賃貸管理システムを強化し、サービス体制の一層の充実を図ってまいります。また、建物の長期修繕計画の立案や的確なアドバイスを行うためのコンサルティング能力の向上を図り、購入者と入居者の双方に満足いただけるよう努めてまいります。

建設事業

建築物の設計、施工、請負業務における技術力の向上と受注力の強化を図り、事業基盤の確立に努めてまいります。

旅館事業

旅館事業におきましては、さらなる業績拡大のため、サービス品質の向上に努め、集客力を強化し、収益改善策の浸透を図ってまいります。

(6) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めておりますが、将来における経営環境の変化は予想の域を超えることが出来ず、正確な長期方針の立案は難しいものとなっております。

当社グループは、経済動向や業界環境の推移等を総合的に判断し、事業推進にあたっては、安易な拡大路線をとることなく採算性を重視する方針をとっております。今後につきましても、資産運用型マンション事業をコア業務として経営資源を集中させていく方針であります。事業環境の変化に的確に対応し、周辺事業の拡充はもちろんのこと、新規事業への進出も視野にグループの総合力を高め、長期安定的に企業価値の拡大を図ってまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,861,000
計	36,861,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月8日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	16,098,250	32,196,500	東京証券取引所市場第二部	単元株式数100株
計	16,098,250	32,196,500	-	-

(注)平成25年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は16,098,250株増加し、32,196,500株となっております。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	16,098,250	-	1,858	-	2,345

(注)平成25年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は16,098,250株増加し、32,196,500株となっております。

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 535,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,561,500	155,615	-
単元未満株式	普通株式 1,350	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	16,098,250	-	-
総株主の議決権	-	155,615	-

(注) 平成25年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は16,098,250株増加し、32,196,500株となっております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社エフ・ジェー・ネクスト	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号	535,400	-	535,400	3.32
計	-	535,400	-	535,400	3.32

(注) 平成25年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これにより、自己名義所有株式数は535,400株増加し、1,070,800株となっております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．金額の表示単位の変更について

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載していましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間につきましても百万円単位に組替え表示しております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,368	11,225
受取手形及び営業未収入金	1,213	1,317
有価証券	2	1,503
販売用不動産	5,669	2,694
仕掛販売用不動産	10,384	10,806
未成工事支出金	6	4
原材料及び貯蔵品	7	9
前渡金	145	156
繰延税金資産	370	554
その他	297	316
貸倒引当金	4	4
流動資産合計	29,460	28,583
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	902	914
減価償却累計額	390	403
建物及び構築物(純額)	511	511
土地	467	469
その他	247	249
減価償却累計額	195	200
その他(純額)	51	49
有形固定資産合計	1,030	1,031
無形固定資産	93	89
投資その他の資産		
投資有価証券	228	221
繰延税金資産	393	368
その他	1,247	1,296
貸倒引当金	10	10
投資その他の資産合計	1,859	1,875
固定資産合計	2,982	2,996
資産合計	32,443	31,580

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	388	283
1年内返済予定の長期借入金	2,781	3,175
未払金	322	282
未払法人税等	963	175
未払消費税等	111	162
預り金	1,333	1,313
賞与引当金	123	40
その他	409	437
流動負債合計	6,431	5,870
固定負債		
長期借入金	3,332	1,955
退職給付引当金	251	237
役員退職慰労引当金	646	655
長期預り敷金保証金	1,598	1,561
長期預り金	73	83
その他	0	0
固定負債合計	5,902	4,492
負債合計	12,334	10,363
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,858	1,858
資本剰余金	2,345	2,345
利益剰余金	16,114	17,227
自己株式	232	232
株主資本合計	20,087	21,199
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	17
その他の包括利益累計額合計	22	17
純資産合計	20,109	21,216
負債純資産合計	32,443	31,580

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	6,562	9,682
売上原価	4,619	6,929
売上総利益	1,942	2,752
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	117	112
給料手当及び賞与	434	484
賞与引当金繰入額	32	37
退職給付費用	10	17
役員退職慰労引当金繰入額	6	8
その他	672	747
販売費及び一般管理費合計	1,274	1,407
営業利益	668	1,344
営業外収益		
受取利息	1	3
違約金収入	4	2
助成金収入	-	1
その他	1	0
営業外収益合計	7	8
営業外費用		
支払利息	24	17
その他	8	1
営業外費用合計	33	19
経常利益	642	1,333
特別損失		
会員権評価損	3	-
特別損失合計	3	-
税金等調整前四半期純利益	639	1,333
法人税、住民税及び事業税	197	237
法人税等調整額	119	155
法人税等合計	316	81
少数株主損益調整前四半期純利益	322	1,252
四半期純利益	322	1,252

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	322	1,252
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1	4
その他の包括利益合計	1	4
四半期包括利益	320	1,247
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	320	1,247
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

前連結会計年度末において連結子会社でありました株式会社エフ・ジェー不動産販売は、平成25年5月1日付で当社に吸収合併されたことに伴い、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	24百万円	23百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	140	9	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	140	9	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	不動産 開発事業	不動産 管理事業	建設事業	旅館事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,951	391	149	69	6,562	-	6,562
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	69	119	2	194	194	-
計	5,953	460	269	72	6,756	194	6,562
セグメント利益 又はセグメント損失( )	587	118	25	12	667	0	668

(注)1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額0百万円には、セグメント間取引消去6百万円、  
たな卸資産及び固定資産の調整額 5百万円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	不動産 開発事業	不動産 管理事業	建設事業	旅館事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	8,929	429	224	97	9,682	-	9,682
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	84	124	3	214	214	-
計	8,931	514	348	101	9,896	214	9,682
セグメント利益 又はセグメント損失( )	1,159	169	6	10	1,324	20	1,344

(注)1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額20百万円には、セグメント間取引消去7百万円、  
たな卸資産及び固定資産の調整額12百万円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

(共通支配下の取引等)

当社は、平成25年3月26日開催の取締役会において、当社の100%連結子会社である株式会社エフ・ジェー不動産販売を吸収合併することを決議し、平成25年5月1日に合併いたしました。

1. 合併の目的

株式会社エフ・ジェー不動産販売の主力であるファミリーマンション分譲事業において、当社の仕入面及び販売面における人材、ノウハウ、資金等の経営資源を効果的・効率的に活用することによって、安定的な収益基盤を確立することを目的としております。

2. 合併する相手会社の名称

株式会社エフ・ジェー不動産販売

3. 合併の方法、合併後の会社の名称

当社を存続会社、株式会社エフ・ジェー不動産販売を消滅会社とする吸収合併方式

4. 合併による割当ての内容

株式会社エフ・ジェー不動産販売は、当社の100%子会社であるため、新株式の発行及び金銭等の交付は行いません。また本合併による当社の資本金の額及び準備金の額に変更はありません。

なお、本合併は、当社においては会社法第796条第3項に定める簡易合併であり、株式会社エフ・ジェー不動産販売においては会社法第784条第1項に定める略式合併であるため、それぞれ株主総会の承認決議を経ずに合併を行っております。

5. 相手会社の主な事業の内容、規模

商号	株式会社エフ・ジェー不動産販売
所在地	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
代表者の役職・氏名	代表取締役 肥田 幸春
事業内容	ファミリーマンションの分譲、資産運用型マンションの販売代理、仲介、伊豆地域における土地・建物の分譲、販売、仲介業務
資本金	50,000,000円
設立年月日	昭和61年1月28日
発行済株式数	1,000株
純資産	105百万円
総資産	1,736百万円
決算期	3月31日

平成25年4月30日現在

6. 合併の時期

平成25年5月1日

7. 会計処理の概要

この合併は「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10円36銭	40円23銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	322	1,252
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	322	1,252
普通株式の期中平均株式数(株)	31,125,700	31,125,700

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 当社は平成25年8月1日を効力発生日として、普通株式1株を2株の割合で分割する株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

(重要な株式分割)

当社は、平成25年7月4日開催の取締役会において、以下のとおり、株式分割を行うことについて決議いたしました。

1. 株式分割の目的

当社株式の流動性を高めて投資家の皆様に、より投資しやすい環境を整えるとともに、投資家層の拡大を図ることを目的としております。

2. 株式分割の概要

(1) 分割の方法

平成25年7月31日(水)の最終の株主名簿に記録された株主の所有普通株式1株につき、2株の割合をもって分割いたします。

(2) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式数 16,098,250株  
 今回の分割により増加する株式数 16,098,250株  
 株式分割後の発行済株式数 32,196,500株  
 株式分割後の発行可能株式数 36,861,000株

(3) 日程

基準日公告日 平成25年7月16日(火)  
 基準日 平成25年7月31日(水)  
 効力発生日 平成25年8月1日(木)

(4) 1株当たり情報に及ぼす影響

1株当たり情報に及ぼす影響については、「1株当たり情報」に記載しております。

2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月8日

株式会社エフ・ジェー・ネクスト  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 向川 政序 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 栄司 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 湯浅 敦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エフ・ジェー・ネクストの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エフ・ジェー・ネクスト及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。